

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372101481
法人名	平成フードサプライ 有限会社
事業所名	グループホーム 岡崎 若松の家
訪問調査日	平成 19 年 8 月 28 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 5 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372101481
法人名	平成フードサプライ株式会社
事業所名	グループホーム岡崎若松の家
所在地	岡崎市若松町字川向7番地の1 (電話)0564-71-2210

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成19年8月28日	評価確定日	平成19年10月5日

【情報提供票より】(19年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	16 人	常勤	7 人, 非常勤	9 人, 常勤換算	2.25

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての階～1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名	
要介護1	3 名	要介護2	6 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	2 名	要支援2				
年齢	平均	84 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかせ歯科
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大きな通りから少し奥まった住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。家庭的な環境でその人その人が望む生活を楽しんでもらうために安らぎのある空間の中で毎日を楽しく過ごす事ができるように工夫され支援されている。職員の異動は基本的にはないが、仲がよい利用者と同じユニットへ異動はしている。管理者と職員のチームワークが良くとれていて、それが利用者にも伝わり家族との信頼関係も得られホーム全体が明るい。職員は利用者から家事の事や生活のママ知識などを教えられる事もあり、日常生活において共に助け合う良い関係が作られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での主な改善点は理念の掲示と、身体拘束の記録整備である。理念は玄関の見やすい場所にきちんと掲示されていた。透析を受けている利用者のベッド柵の拘束については、家族の同意書はもちろん経過記録をとっていた。今では、ベッド柵は取ってベルトだけの拘束になっている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価について話し合い作成した。それによりケアの振り返りやサービスの向上を図る機会ができた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4. 5. 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され出席者は包括支援センター職員・民生委員・町代表・家族などである。運営推進会議の議題は外部評価報告と改善に向けた取り組みや事業所の活動状況・地域交流などについてである。職員は会議に交替で出席し、会議で出た意見などを持ち帰り職員会議で検討しサービスに反映させている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	重要事項説明書などで苦情相談窓口を明確にし、利用者や家族に伝えている。意見や相談を受けられるように玄関に意見箱を設置したり、家族の訪問時には必ず声をかけて話しやすい雰囲気作りをしている。運営推進会議で家族からの意見が出されると職員会議で話し合い、その後のケアにつなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの駐車場が広いため近所の子供たちがキャッチボールをする場所として提供したり町内のお祭りに神輿をかついで来てくれる。自治会には入っているが、施設ととらえられて清掃活動などは免除されている。今後は町内の話し合いの場に参加させてもらいたいと考えている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は「一緒にのんびり楽しく暮らす第二の住まい」を掲げている。これは、利用者も参加して作り上げた理念である。	○	今後は地域密着型サービスを反映した、地域との連携を図るような理念も加えられることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関と各フロアに掲示しており、ミーティングのときなどに共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入しているが、町内の行事があまりないので頻繁には近所との交流はないが、お祭りの時は神輿をかついでホームの駐車場まで来てくれる。ホームの行事があるときは町内にチラシを配って交流を図っている。	○	利用者の状況と意向を踏まえて、今後も地域との交流を深めていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、日頃の取り組みを再確認し、外部評価での改善すべきところを謙虚に受け止め、サービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、現況報告や課題について検討している。認知症に対する地域の人々への啓発や地域交流のための具体的な課題についても話し合われている。	○	運営推進会議は地域との交流を図る大事な機会であるため、これからも継続してグループホームへの理解を深める為話題を意図的に取り上げることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と情報交換を行い連携が少しずつ取れるようになり、事業所内の相談などができる関係づくりがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「若松通信」に日々の暮らしぶりや、行事の様子などを書いて1ヶ月に1度請求書と一緒に家族に送っている。お金は個別に預かり、出納をつけて家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務室脇に意見箱を設置している。又、家族の来訪時に意見交換や問いかけを行い意見や苦情など言いやすい関係づくりに努めている。出された意見・要望等については職員のミーティングなどで話し合い事業所の運営に反映されるように努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のユニット間の異動は基本的に行っていない。離職の場合は利用者に対してできるだけダメージを与えない方法で伝えている。新人の職員には各ユニットのリーダーが付き添い指導して、利用者が徐々に馴染めるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や外部の研修は勤務体制を調整しながら、交替で受講している。又、研修レポートの提出を義務付けて他の職員へのケアサービスの質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市からの委託により、岡崎市内のグループホームの交流会があり管理者が出席しており定期的に市役所で行われている。各グループホームでの行事の事や防災についての話し合いがされていて、積極的に情報交換をしてサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用される前に館長や介護支援専門員が本人や家族と面接をして本人が納得の行く形の入居となるよう努めている。入居後は居室に馴染みの物品を持ちこんで頂いたり、落ち着くまで家族に付き添いをしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者が人生の先輩である事から、日々の生活の中で例えばアロエの効能など、ちょっとした生活の「マメ知識」を教えてもらう事があり、職員は感謝しながら、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や利用者同士の会話の中から意向の把握に努めたり、利用者の表情を観察して、出来るだけ希望に沿うサポートをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常業務の中での職員の気付き、利用者との会話からの情報収集や、家族からの要望などをミーティングで話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、個々に違い、状態変化が見られる時は家族と相談して、ミーティングを開き、その都度介護計画書を作成している。	○	利用者の状態の変化が際立って見られない場合でも安定期に計画を見直しそれを記録に残す事が大事である。なおその計画の期間を明示しておく必要がある。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医などの通院の送迎や付き添いなど、家族が対応できない時に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の入居前のかかりつけ医院に家族と受診してもらっている。かかりつけ医院が無い場合、ホーム近隣の内科医院を受診してもらい、そこで緊急時の対応もお願いする時もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化や終末期に向けた指針はまだできていないが、職員は利用者、家族や主治医と密に連絡を取り、情報を共有して取り組んでいる。	○	ホームとしての重度化や終末期に向けた方針を職員で話し合い検討される事を望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者によりやさしく、ゆったりと話掛けていて、誇りやプライバシーを損ねるような対応はしていない。又利用者の個人情報の取り扱いについては、理解し周知している。本人、家族には個人情報保護法に関する同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々の生活パターンはできている。一人ひとりの希望に沿った支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者と一緒に食事の仕度をしたり、後片付けをしたりしている。職員は利用者と一緒に食事はしていないが食事介助をしながら他の人のサポートもして、楽しい雰囲気を作る努力もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日置きとなっているが、本人の希望があれば毎日入る事も出来る。時間帯は午後14時頃から16時頃となり、利用者の気の合う者同士の入浴もある。	○	夜間帯の入浴も検討されたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫の好きな人にはぞうきんや防災ずきんなどを作ってもらい、元農家の人にはホームの畑で野菜作りの助言などしてもらっている。その他家事の手伝いも喜んでされている。喫茶店にコーヒーを飲みに行くのが好きな人もいる。職員はそれぞれに合う役割、楽しみながら、気晴らしの出来る事を考え工夫しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に行っている。たまに喫茶店に寄ったり外食に行く事もある。各人の欲しい物(お菓子)や日用品(歯磨きなど)を買いに個々に買い物にも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵はかけていない。職員は利用者が外出しそうな様子を見かけた時は、一緒に外出している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6月と12月の年2回利用者と職員で消火器の使い方などを含めた消防訓練をしている。本人や家族と災害時には何処に集合するのかなど話し合いをして、各人の災害時マニュアルの作成に取り組んでいる	○	夜間帯の訓練もされる事を望んでいる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の高血圧、透析などいろいろな病状に応じた食事摂取の対応をしている。水分摂取量や食事摂取量は毎日記録に残している。又、主治医の指示をもらい対応している人もいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員はテレビの音量は気をつけて適度に調節している。リビングにはソファやテーブル、椅子の配置はテレビを見たり、食事をするなど、それぞれの目的に見合った工夫がされていた。玄関の外にはベンチが置いてあり、利用者が一人で過ごしたり、気の合う者同士でくつろげる居場所の確保ができています。又、手作りのひまわりの絵が飾ってあり、季節を感じる事が出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れたタンス、馴染みの2段ベッドを工夫して、使用していた。本人の居心地のよい空間となっている。		